

講義名	対)専門基礎演習(経)			
担当教員	辻 美代			
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 1時限	授業形態	演習	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

1年次の「気づきの教育」を経て模索している「なりたい自分」の実現に向けて、自ら選択した学部・学科・コースでの2年次以降の学びに円滑に移行できるよう、専門科目を学ぶ際に求められる基礎的な能力・技能のさらなる向上を図ることを目的とする。「考える学習型」授業や研究演習に積極的・主体的に参加し、課される課題に取り組む上で求められる、汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図る。これらを通じて、本学の学生が卒業前に共通して身につけておくべき自らの責務・能力を身につけた人材(「スアカ」のひのびへこたれず、の精神をもった人材、知識を知識に転換することができる、論理的思考力を持った人材、創造力(新しい視点と豊かな発想)を持った人材、自主・自立の精神を持った人材、仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材)となるための確かな基盤を築く。

到達目標

・「考える学習型」授業や研究演習に積極的・主体的に参加し、課される課題に適切に取り組む上で求められる、文書作成、プレゼンテーション等ができるようになる。
 ・学部・学科の専門分野、研究演習の研究対象分野に応じて必要とされるレベルの Word、PowerPoint、Excel 等の操作ができるようになる。
 ・将来の「なりたい自分」の実現に向けて、それに即した適切な専門ゼミ(「研究演習」)を選択できるようにする。

*オンデマンドでの受講では、以上の到達目標を達成することが難しい。このため、対面授業とする。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生については、その期間のみ課題学習などによって対応する。

提出課題

経済学部の専門基礎演習は、第1回～第10回と第11回～第15回に区分される。
 第1回は、ガイダンス・ゼミ紹介等を行う。第2回～第9回では、経済学部所属教員のうち「研究演習」(通称「ゼミ」)を開講する教員を訪ね(毎回訪ねる教員は異なる)、そのゼミについての説明を受け、その内容をきちんと理解したうえでゼミ選択できるようにする。第10回は、研究演習 第1次募集申込書提出状況を確認し、ゼミ選択の交流をおこなう。第1回～第10回では、毎回ワークシートの課題が課される。
 第11回～第15回は、クラス別に能力・技能の向上と育成のための演習を行う。提出課題は担当教員により異なる。詳しくは演習時に説明する。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

第1回～第10回のワークシートについては、担当教員による確認等を経て受講生に返却する。
 第11回～第15回の提出課題に対するフィードバックは担当教員により異なる。詳しくは演習時に説明する。

評価の基準

第1回～第10回のワークシート 60%、第11回～第15回の課題 40%の割合で評価する。

履修にあたっての注意・助言他

この科目の到達目標達成のために、毎回出席し、課題を提出すること、RYUKA Portal の講義連絡やメールなどをこまめに確認し、指示に従うこと。

教科書				
.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

資料は、必要に応じて演習中に配布する(事前にRYUKA Portal の講義連絡で配信することもある。その場合、ダウンロードし、印刷するなど、演習に向けて準備すること)。参考文献は、必要に応じて随時紹介する。

授業計画

1. 専門基礎演習の運営方針説明、自己紹介等
2. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
3. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
4. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
5. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
6. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
7. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
8. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
9. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
10. 研究演習 第1次募集申込書提出状況の確認、ゼミ選択の交流
11. 汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図るための演習
12. 汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図るための演習
13. 汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図るための演習
14. 汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図るための演習
15. 汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図るための演習

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A・L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

研究演習の説明を受けるにあたっては、事前にそれぞれのシラバスを熟読し、予備知識を備えておくこと。毎回の課題に取り組み、学習内容を身に付けること。担当教員の指示にしたがって必要な予習を行うこと。以上をつづけて、1回の演習につき4時間程度の事前・事後学習が必要となる(研究演習 第1次募集申込書の作成の時間なども含む)。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目は学部共通科目の特別研究に位置づけられており、そのカリキュラム・ポリシーのうち、「専門科目で修得した知識を基に、より専門性の高い内容を少人数クラスで学ぶ科目」の土台づくりを行う。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

演習形式の授業である。学生はワークシートや課題を提出し、教員がそれについてコメントする。また、学生の発表や学生間の議論を実施する。

実務経験の有無及び活用

なし。

備考